

[10_8/10] 図書館情報 : 九州大学附属図書館月報 :
10(8/10)

<https://doi.org/10.15017/18294>

出版情報 : 図書館情報. 10 (8/10), pp.31-36, 1974-08-25. 九州大学附属図書館
バージョン :
権利関係 :



図書館情報

1974.8.9.10

The Kyushu University Library Bulletin

Vol. 10, No. 8・9・10

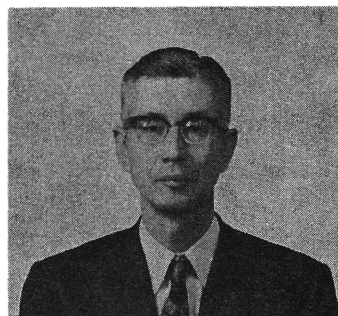
館長就任のあいさつ

田中武英

7月16日付で、松浦前館長が理学部長に御就任になったため、はからずも附属図書館長に任命されました。

かねがね、附属図書館商議委員として附属図書館のあり方、新設図書館の機能拡充など外野席にいる応援団みたいになん、興味半分御手伝いさせていただいてはいましたが、実際、運営に参加することになりますと、門外漢のことゆえ重責をひしひしと感ずます。

さて、大学図書館の現状と将来のことを考えてみますと、やらねばならぬ問題が数多くあるように見えます。至近の問題としては、大学図書館の使命が、現代のような情報の洪水時代の中にあつて、渦巻く情報の濁流の中から、能率良く大学における研究・教育・学習機能への必要な情報を吸い上げ、それらを貯蔵し、必要な場合に利用者へ迅速に提供出来るようにすることだと考えますと、現状が決して万全ではなく、いろいろな問題が存在するように思えます。



第一に、新しい図書館になって、確かに学習図書館として、学生が静かに勉強のできる部屋、ゆったりした気分で情報の入手ができる部屋はできたものの、適温環境の維持、勉強にすぐ役立つ参考書の数、学習以外の教養を身につける書籍など、決して満足と言えない現状です。

第二に、教育図書館としても機能的には一応でき上り、ゼミナール室、小演習室、視聴覚室、また語学の自習のできるラボを備えた部屋など、設備はできましたが、多くの資料を備える費用がないのと、あまり活用されると維持費が不足するというジレンマがあります。

第三には、研究のための図書館、これは残念ながら新館ができて一番立遅れていると思われず。文系の最新の図書がほとんどはいつていないので、中央の名が恥ずかしいのですが、逆に理農系の最新雑誌が所蔵されて、科学研究、情報提供の図書館としての活用が期待され、関係者に大いに利用され始めていることは、明るい曙光といえましょう。しかし、科学情報の検索について機械的処理設備がないこと、それを企画立案し運営してゆく要員が、定員削減のため得られないなどで、電算機を据えつける部屋があつても、中味がないという残念なこともあります。

このように解決せねばならぬ問題があるのに、その裏付となる図書館そのものの財政は、文部省からくる経費と全学からの振替経費でまかなわれていますが、決して十分なものといえませんが、文部省にいわせれば、大学図書館に対する予算は教官研究費と学生経費の積算の中に合せて配分していることから当然、ある必要量出してもらふべきだということです。学内振替予算は、新館ができてからかなり増額されてはいますが、それでも非常勤職員の人件費の昇が大きく、振替経費のほとんどをくっている状態で、なんら新規事業ができません。どうか新図書館としての機能を充実させるためには、全学の今一層の財政的御援助をいただくよう御願ひ致します。将来への展望としては、今日まで情報伝達の媒体として、全盛をになつてきたブックスタイルの図書も、その収容力、保存性に問題をかかえていることから、昨年に発足した保存図書館の充実に加えて、現代の情報化時代にふさわしい情報活動の開拓、たとえば、マイクロフィッシュや磁気テープに集積された記録を、電算機を利用して分類選別後、必要データのみをコピーして利用者に御渡しできるような便利な機能的な図書館への脱皮、そしてこれは、九州大学のみならず九州地区全体のセンターとしての機能をもたせていくことが必要だと考えています。

図書館館員の皆さんは、本当に熱心に図書館業務に専念されていて、昭和四年以来増えない定員で、情報山積の業務をかたずけておられるのに敬服します。しかし、現実の問題は、ただ館員の努力だけでは解決できない問題です。私は上記問題にとり組み、少しずつでも解決してゆきたいと考えています。文部省をはじめ、学内全体の御理解と暖かい御援助を御願ひするとともに、学内の皆様に図書館をできるだけ御利用いただき、新図書館をよりよくするための積極的な御意見、御叱正、御不満など、どしどしお聞かせ願えれば幸甚です。

(たなか・たけひで：図書館長)

昭和49年度大学図書館職員長期研修に参加して

八 尋 重 久

<とき：昭和49年8月9日～9月3日 ところ：図書館短期大学>

この研修に参加することが決った時、以前の受講者から真夏の時期に講義室にはクーラーの設備がなく、理解困難な電子計算機の講義およびプログラムの実習をしなければならないので、精神的、肉体的に大変苦痛だったと驚かされ、喉頭炎症のため、あまり健康でない私は、無事に研修に堪えられるだろうかと危惧の念を抱いていたが、開講当日クーラーが設置されているのを知り一安心しました。このため快適な研修が続けられ、電子計算機の実習も特に負担に感じなかったように思われます。

この研修は、文部省学術国際局ならびに図書館短期大学が図書館職員に最新の知識と技術を得させ、図書館業務の合理化・機械化によるサービス機能の向上と質的改善を意図して例年主催されているものである。

今回の研修は、(1)これからの大学図書館のあり方 (2)大学図書館管理運営論 (3)図書館業務の機械化 (4)インフォメーション・サービスの4つからなり、この外に学術国際局の専門員や掛長などとの共同討議が数回持たれ、文部省の今後の方針および在外研修報告によって米国図書館界の動向を詳細に知ることが出来、今後の大学図書館はどう進むべきかその方向づけを理解しえたように感じる。この中で私が特に関心をもったものについてその二、三を紹介しよう。

1. 大学図書館の機構改革の実例——慶応義塾大学の場合——(高島忠大講師)

1961年、当時慶応義塾大学には大小十数の部局図書館、研究所図書室があり、それぞれが個別的に図書館資料を管理し、資料の提供サービスを行っていたが、(a)情報収集の機能の拡大と各図書館相互の連絡の緊密化 (b)情報処理体制の確立と能力の向上が意図されて図書館活動の確実なデータによる適正な現状分析・評価、図書館間の相互理解と人間関係の確立のための人事交流と併行して図書館実務者研修および館員による海外図書館の視察と調査研究が実行され、これによって、館員相互の連帯感が生じ、新しい図書館の創造意欲が増進された。また管理者・研究者にも図書館改革の重要性を十分認識してもらい、その協力のもとに全学の図書館行政を統括する機関として情報センターを新設し、各キャンパスには支部センターが置かれ、ピラミッド方式の機構組織に再編成が行われた。この機構の確立によって図書館活動が効果的に一体化し、更に専門領域別の情報要求の特性に応じ得る情報活動体制が具体化した。これまでの過程においてはいろいろと予測し難い問題がおり、昭和36年2月新図書館計画委員会が発足してから、昭和47年4月最後の理工学支部センターが設けられるまでに約11年間の月日を費している。このことは改革が如何に容易でないかを示している。再編成前の慶応義塾大学とほぼ同じ状態にある本学の図書館機構組織を図書館員相互が連携性と創意性を育成し、部局間の対立点の調整を計り、長期的展望に立って図書館ビジョンを確立するならば、本学の図書館活動はより発展し、利用者の期待に答えられることになることを確信する。

2. 図書館業務の機械化

(1) 機械化のためのシステム設計(桜井宣隆講師外)

図書館業務には資料の管理と活用の Static process と Dynamic process があり、これを基本的システムに分解すれば管理企画の Total system のもとに逐刊物収集、整理、管理、貸出、参考の Unit system がある。またシステムには Input, Storage, Processing および Output の構成要素が一般的に考えられる。更にシステムが環境との緊張関係にあるとすれば、合理性と人間性からの Feed Back も重要な要素となる。従ってシステムの設計には、これらの要素を充分勘案した通常業務の改善が前提となるから、業務の本質的な理解と現実の姿および基礎設備や技術などを深く理解することが最も肝要である。特にコンピュータを導入する場合には「何を私たちはしなければならぬのか？」を考慮したうえでシステム設計をすべきだろう。

(2) 機械化の適用——図書館の技術革新——(杉村 優講師)

図書館の情報サービスを強化するには、技術革新が必要である。この革新によって利用者の図書館に対する潜在的な期待を顕在化せしめ、併わせて利用者にもその有効性と重要性を認識させることが出来る。近年知識・情報の生産およびその蓄積量が急激に増加しており、予算の最も効率的使用と人員削減などによる業務量の増大の対策として機械化による技術革新を行えば、このことが緩和され、生産性の向上がより高くなると考える。図書館の機械化は、MARC などによる原材料革新、または新技術導入によるプロセスの省力化、合理化を通じて生産を高め、原価を引下げるために必要である。そのためには大量生産による規模の経済性を生かし、単位原価を引き下げるのに図書館間のネットワーク確立が不可欠な条件となる。しかし、機械化するに際しては、設備・維持費等に多額の予算を要するので、システム工学的と経営学的な面からのシステム分析と設計を十分審議しなければならない。

これらの講義と共に電子計算機 HITAC-8210 システムを用いた KWIC 索引の作成、CPM (実施事項計画図) の演習およびプログラム作成を実習し、東京工大、群馬大学ならびに JICST など

の電子計算機の使用状況とその効果を見聞した。電子計算機と聞くとアレルギー症を起す程大変難かしいものと思っていたが、今回の研修によってこの先入観は消え去り、ハードウェアは別にして、ソフトウェアについては、ほぼ理解できたように思う。

この研修に参加して特に感じたことは、各大学が管理体制の改善、整理業務の集中化、運用業務の効率化の促進に電子計算機の導入、またはその準備に本格的に取り組んでいることである。我々は大学図書館界の動向にもっと注目し、この流れから遅れないよう、常に技術革新を念頭において活躍していく必要があるのではないだろうか。
(やひろ・しげひさ：受入掛長)

◆ 会 議

第48次国立七大学附属図書館協議会

＜とき：昭和49年9月19日～20日 ところ：東北大学附属図書館＞

第一日目は、第7回国立七大学附属図書館部課長会議が開催され4議題について、第二日目は協議会として7議題についてそれぞれ終始熱心な協議 または、意見、情報の交換がなされた。二日間を通して文部省学術国際局情報図書館課から沙藤専門員、雨森大学図書館係長が列席し、文部省の方針をのべ、個々の議題に関して適切な示唆を与えた。各大学から提出された議題は次のとおりである。

1. 部課長会議

- (1) 週休二日制に伴う図書館の対応について（北大）
- (2) 課長補佐定数の増加について（東大）
- (3) 外国雑誌の未着について（名大）
- (4) 指定図書制度の運用について（京大）

2. 協議会

- (1) 第3次定員削減について（東大、九大）
- (2) 地区別に文献複写センターを設置することについて（東大）
- (3) 図書館業務における時間外開館の位置づけについて（東大）
- (4) 中央館予算の学内措置について（名大）
- (5) 中央館の研究図書館としてのあり方について（京大）
- (6) 大学図書館近代化の一環としての学術研究資料館構想について（東北大）
- (7) 図書館幹部職員の登用人事について（東北大）

以上の議題について協議された結果、当面する諸問題の中から緊急でしかも重要なもの2題、すなわち

I. 図書館職員の増員と定員削減からの除外について

II. 大学図書館における幹部登用人事について

をとりあげ、国立七大学附属図書館長連名で文部大臣あて要望書を提出することになった。なお、レファレンス、貸出、保存、集中整理の4つの機能を柱とする学術研究資料館構想については、その早期実現推進方を協議会の席上、文部省係官あて口頭で要請した。

注：上記要望書は、昭和49年11月26日付で三原文部大臣あて提出された。

本 学 教 官 著 作 寄 贈 図 書

〈中央図書館〉

吉 良 今朝芳（農学部附属演習林・助手）

椎茸の生産と流通（吉良今朝芳著）

昭49 農林出版KK ￥2,000

〈文 学 部〉

荒 木 見 悟（文学部教授）

朱子・王陽明（世界の名著 第4巻）（荒木見悟編）

昭49 中央公論社 ￥1,500

岡 崎 敬（文学部教授）

東西交渉の考古学（岡崎敬著）

昭48 平凡社 ￥5,800

利 用 案 内

医学図書館の利用について

1. 当館の特色

この図書館は、医学およびその関連分野の教育研究を目的とし、九州大学においても特色のある図書館としての機能をもっています。蔵書冊数は198,505冊で医学部、歯学部、薬学部、医療短大その他全学の教職員、学生にひろく公開されると同時に、地域医学情報センターとしての機能をも併わせもっています。

2. 開館時間、休館日

月曜日～金曜日：9時～17時，土曜日：9時～12時です。毎月1日，年末年始の休館日をのぞいては，月曜日～金曜日は19時まで，土曜日は15時まで，開館時間の延長を行っています。

3. 入館に際して

まず，カバンなどはロッカーに入れて下さい。それから，入館券を一階閲覧カウンターに提出してから入館して下さい。私物の図書の持込みをする時には，図書冊数を一階閲覧カウンターで提示し，冊数券を受け取って下さい。

a. 入館券，貸出券の発行 九州大学医学分館地区の在籍者は手続をすれば交付します。その際，必ず身分証明書，学生は学生証を持参して下さい。

b. 時間外に返却するときは，玄関の図書返却ポストを利用して下さい。ポストに返却された図書の貸出券は，7日以内に受け取って下さい。

c. 入館券，貸出券の紛失 紛失した場合にはすぐ閲覧掛へ届けて下さい。入館券は再発行しますが，貸出券は再発行しません。したがって保管には十分注意して下さい。

d. 共通利用 当館発行の入館券および貸出券は，中央館，理学部図書室，農学部図書室にも通用します。

4. 図書の利用

全館開架方式ですから，館内の図書は自由にとり出して利用することができます。書架から一度とり出した図書は，もとの書架には返さないで，一定の返却場所に置いて下さい。これは配架の乱れを防ぐとともに，利用統計のためにも必要です。

5. 図書の探し方

雑誌は和雑誌，洋雑誌とも誌名のアルファベット順に，指定図書および単行本は，主題別に分類して配列しています。図書を検索するときは目録カードを利用して下さい。

6. 図書の貸出手続

目的の図書が見つかったら，貸出券を添えて一階の閲覧カウンターに提出して下さい。貸出には，1冊について貸出券1枚が必要です。貸出期間

雑誌：8日間 図書：8日間

禁帯出のラベルを貼った指定図書に限って平日は，16時から翌日の13時まで，土曜日は12時から月曜日の13時まで特別に貸出します。貸し出された図書の裏表紙をあげると返却期日がスタンプされています。遅れないよう注意して下さい。1回遅れるごとにパンチを入れます。3回パンチが入ると，その貸出券は無効になります。貸出期間の延長は，その図書に対する予約者がいない場合には2回まで認められますので，期限内に申し出て下さい。電話でも延長できます。（電話（代）641-1151）内線 3194，6252）

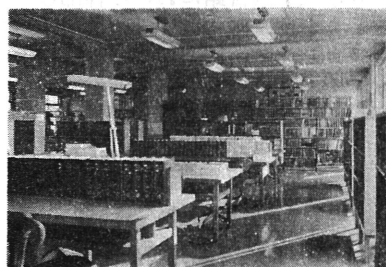
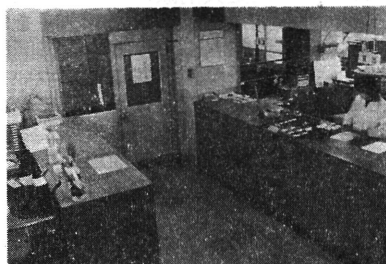
7. レファレンス・サービス

a. 事項調査 たとえば，研究者についての経歴，業績，研究所の活動状況，現住所，用語の定義，略語，出版物についてのデータ，その他，諸統計などについて辞書，事典，年鑑などの基本参考図書ももちいて，的確なサービスを提供します。

b. 文献所在調査 医学図書館を特色づける機能の一つで，研究者が求める文献の所在を学内，学外，国外をとわず調査し，文献の入手を援助するサービスです。

c. S D I サービス S D I (Selective Dissemination of Information) とは，選定情報の提供といわれるもので，当館では Index Medicus を情報源として，テーマに関連ある MeSH (Medical

(35頁下段へ続く)



レファレンス・コーナー (その31)

——中央図書館情報資料掛——

中央図書館の情報資料掛(電・5310・5317)では、利用者の方々から寄せられてくるいろんな質問事項の調査を行っています。ごく最近にあった質問のなかから幾つかを、ご参考のためにここへ挙げてみることにします。

質問1 最近の新聞で日本翻訳者協会の存在を知ったが、事務局の所在地を教えてください。

解答例 出版年鑑'74 (025.1/Sh99/1974)で調査。日本翻訳家協会として記載されており、創立は昭和29年である。

質問2 ギリシャの地方名アカイアのスペルは。

解答例 世界地名大事典(290.3/Se22-1/1)で調査。アキア(Achaea)または、アカイアともいう。ギリシャの古代の地方。今日のコリント湾周辺のパトラス附近にあたる。

質問3 浮世絵の写案について知りたい。

解答例 新修浮世絵二百五十年(722ウ18)世界大百科事典(022セ7)で調査。東洲斎写案。通称を齊藤十郎兵衛といい、蜂須賀侯の能役者であったというのがその事歴は不明である。彼の錦絵は、わが国においては特に顧みられなかったのがドイツ人クルトの賞賛するところとなってから、一躍世界的な芸術家としてクローズアップされるにいたった。なお、この資料には江戸時代の著名な浮世絵師多数が掲載され、それらの作品について大部の図版入りで解説されている。

質問4 試験問題の出題方法に多肢・・・法があると聞いたが、その読み方と意味について。

解答例 教育事典(190キ113)外来語辞典(524カ3)で調査。多肢(タシ)選択法または多項式選択法ともいい、マルチプルチョイス(Multiple choice method)からきている。客観テストの代表的な種類で4つまたは5つの選択肢を列記し、その中から正答を選ばせる方式。

質問5 九大図書館に所蔵している沖繩関係資料のうち、戦前に出版されたものを教えてください。

解答例 本館分類目録により、「孤島苦の琉球史」外23点のリストを作成し、依頼者に送付。

質問6 今日の「ドン・ファン」の原型となった作品について知りたい。

解答例 世界大百科事典(020セ6)世界文芸大辞典(530セ5)で調査。スペインの劇作家ティルソ・デ・モリーナ(Tirso de Molina, 1571-1648. 本名 Téllez, Gabriel)の「セビリヤの色事師と石の招客」(El burlador de Sevilla y convidado de piedra, 1630)がその原型となった作品といわれる。

なお、世界名著大事典(010セ41)にかなりくわしい梗概が載っている。

質問7 国際植物組織培養学会の現在までの開催状況、会議の内容および次期開催予定年月日等について知りたい。

解答例 国立国会図書館科学技術関係欧文会議録目録(403.1 Ko49 1-1948-69) 学術月報(050カ20) Vol. 23, No. 10, 学術関係国際会議一覧 1974で調査。

解答例 ①国際植物組織培養学会、第1回会議。(International Conference on Plant Tissue Culture) 1963年にアメリカのPennsylvania State Universityで開催。会議録は次のものが出版された。

Proceedings. ed. by Philip R. White & Alvin R. Grove. Berkeley, Mc Cutchan Pub. Co., 1965, 553p.

②第2回会議。1969年7月6日～10日。フランス国立科学院(CNRS)の主催。ストラスブール植物学研究所で開催。会議録出版の有無については不明。藤井太郎氏(国立遺伝学研究所)がこの大会参加ノートを学術月報 Vol. 23, No. 10 に書いているので、コメントを求めれば詳しいことが判るだろう。

③第3回会議(Third International Congress of Plant Tissue and Cell Culture) 1974年7月21日～26日。英国の University of Leicester で開催が予定されている。

(34頁から続く)

Subject Headings)の項目(前もって登録されている)について、月1回 Index Medicus の該当ページを複写して提供するサービスです。現在のところ、学内校費以外のサービスは行っていません。

8. 文献複写サービス

開館時間中は、サービスを行っていますので利用して下さい。

9. 文献複写の学外申込

必要とする文献が、学内に所蔵されていない場合には学外へ依頼することが出来ます。また、国内にない文献は主として NLM (National Library of Medicine), BLL (British Library, Lending Division) からサービスをうけることが出来ます。申込用紙は、1階カウンターにあります。

◆ お知らせ

Microfiche & Reader Printer が動きます

文献複写というすぐに操作が容易で、良質のコピーがとれ、永久保存が出来るという利点をもつ電子複写機がその王座を占めていますが、一方、保管と検索、経済性については若干の不満もあり、ここにマイクロフィッシュシステムが登場しました。

マイクロフィッシュは、撮影から現像まですべて自動化されており、資料の統一化、すなわちハガキ大のフィルムシート1枚に肉眼で見えるタイトルを入れて、60ページ分を縮小して収容が出来、被写体は新聞紙大まで撮影可能で電子複写方式に比して、保存スペースの経済性、リーダープリンターとの併用によって用紙(A4)に容易に拡大、複写が可能など数多くの特長をもっています。

昨年8月からこの業務を中止していましたが、来たる9月24日(火)から再開することになりました。部局所蔵の貴重資料、古文書、学術文献、その他の複写に威力を発揮します。これらについてマイクロ化の計画があれば、参考掛(内線5309)へご相談下さい。

なお、都合で毎週木曜日までに申込みをうけ金、土の両日作業をいたしますので、この点もお含みのうえご利用下さるようご案内いたします。

料金は下記のとおりです。

記

マイクロフィッシュ

1枚 270 円

リーダープリンター引伸(A4)

1枚 40 円

図書貸出券の共通利用 — 医学部・理学部・農学部との —

中央図書館(理学部、農学部資料を含む)資料の館外貸出には本館の発行する貸出券が必要です、このたび、医学図書館との間で貸出券の相互利用が可能となり、理学部および農学部の方は中央図書館図書帯出券3枚を、医学部地区の方は医学図書館で受ける貸出券のうち3枚(登録の際、貸出券に(共通)印を受ける)については本館との「共通貸出券」として使用することができます。

なお上記以外の学部の方の貸出券では医学図書館との「共通貸出券」として使用できませんので、学部発行の「学内図書相互利用申込書」が必要です。

学内マイク

図書館学初級研修会

図書館学に関する基礎的な知識および技術を習得させ、その資質の向上を目的として下記のとおり実施します。

講師：岩井昭三氏(本学附属図書館閲覧課長)

期間および時間：10月2日～12月4日 毎週水曜日15時から17時まで

会場：中央図書館視聴覚室

なお、今回のこの研修会では分類、目録等整理部門を中心にとり上げ、問題点を提起し、今後更なるこれをほり下げてゆく予定である。

図書系職員の語学研修会

図書系職員の語学力の向上を図るため毎年語学研修会を開催しているが、本年は新しく中国語(初級)の研修を下記のとおり実施します。

講師：竹村則行氏(本学大学院文学研究科)

期間および時間：10月7日～12月9日 毎週月曜日および木曜日16時から18時まで

会場：中央図書館研修室

テキスト：「現代中国語応用篇」太田、香坂、田中、鳥井共編

日 録 49.5.21～8.6

- 7.19 第3回図書館運営連絡会(中央図書館・理学部・農学部)於小会議室
7.22 東京芸術大学附属図書館高橋整理係長、来館
7.24 関西大学図書館図書課藤井主幹他3名、来館
7.27 福岡県立大里高校国武教諭他同校生徒図書部員20名、来館
〃 文部省教育施設部柏木部長、来館

- 7.29 福岡県・佐賀県大学図書館協議会福岡地区研究会、於西南学院大学図書館、岩井閲覧課長他3名、出席
7.31 九州芸術工科大学附属図書館永芳事務長、福岡教育大学附属図書館酒井事務長、来館
8.6 徳島大学附属図書館蔵本分館沖田受入係長、来館

編集委員 主査・岩井昭三 委員・蓑輪 武、本多震一、八尋重久、三嶋博義、長 和栄、桑野 貢(中央図書館) 福永寿夫(医学分館) 堺 弘(教養部分館) 友納昭二(経) 重松多喜造(理) 田端時夫(工) 平川友視(農) 河上 保(産研)

九州大学附属図書館月報「図書館情報」Vol. 10, No. 9・10・11 (通巻98号)

1974年8月25日発行・発行人 中 村 謙

発行所 九州大学附属図書館・福岡市東区大字箱崎 3576・〒8112・電話代表(641) 1101 内 線5301